

今後の事業案内 セミナーのお知らせ

第17回目黒区高次脳機能障害者支援セミナー 開催 テーマ:「高次脳機能障害者のアンガーマネジメント」

- 講師:東京歯科大学市川総合病院精神科部長 宗 未来 先生
- 開催方法:YouTube によるオンライン開催
- 動画配信期間:2025年1月20日(月)10:00~2025年2月7日(金)17:00
- 費用:無料
- 申し込み期間:2024年12月2日(月)~2025年1月10日(金)
- 申し込み方法:当施設ホームページ、電話、FAX よりお申込みください
<https://www.ikiikifukushi.jp/>



就労継続支援B型 いきいきせかんど商品紹介

限定・通常商品ともに、電話またはHP より受付しています。下記でも販売しています。

- 目黒区役所 (第1・3金曜 12時~13時半頃)
- さんまるしえ (月~土 11:00~19:00 目黒区目黒本町1-14-24)
- COHANA-コハナ- (火~土11:00~15:30 目黒区八雲1-1-10)

さつまいもマフィン

さつまいもとはちみつの深みのある甘さが特徴です。ごまの香ばしさも口に広がります。
1個...250円



ゆずマフィン

はちみつの甘さとゆずの爽やかな香りが口に広がります。
1個...250円



寄付金のお願い

私共法人の理念は、制度の間にある人への支援を検討し、全国に普及啓発することであり、若年性認知症や高次脳機能障害の人のための専門施設がその専門性を発揮して、安心・安全に運営を継続することが、何より大切なことと考えております。当法人の理念や活動に共感いただき、応援して下さる方は、大変恐縮ですが寄付金によるご支援、ご協力を賜われればありがたく存じます。NPO 法人は、賛助会員の皆様による事業の応援によって運営が成り立っております。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

ご寄付は以下の口座で承っております

■三井住友銀行
店 番 号 094 学芸大学駅前支店
口座番号 普通6711899
口 座 名 特定非営利活動法人 いきいき福祉ネットワークセンター

■ゆうちょ銀行
記 号 10000
番 号 95750581
口 座 名 特定非営利活動法人 いきいき福祉ネットワークセンター

会員とは

- NPO法人の会員とは、主に賛助会員で構成され、事業活動を理解して応援して下さる方をいいます。
- 当NPO法人の場合、若年性認知症や高次脳機能障害の啓発活動を応援して下さる方が会員となります。
- 施設利用の有無に関わらず、応援することができます。

会費とは

- 事務局の運営、並びに通信の発行や講座等の啓発活動に使われます。
【会費】 入会金...1,000円
年会費...1,000円

新規NPO会員のみなさま

今回、11名の方にご入会頂きました。ありがとうございました。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます

編集後記

若年性認知症に関する施策は少しずつ整備されてきています。しかし個別性の高さや社会資源の少なさから、支援の現場では戸惑うことが多い状況です。このため、これからも広く一般に向けて知識の普及が重要だと思っています。(坂田)

発行所:特定非営利活動法人いきいき福祉ネットワークセンター
〒152-0003 東京都目黒区碑文谷 5-12-1-3 階 TEL. 03-3713-8207 FAX. 03-6808-8576
Mail info@ikiikifukushi.jp HP <http://www.ikiikifukushi.jp/>

いきいき通信

Vol.51
Dec.25th 2024

東京都若年性認知症ネットワーク推進連絡会報告

情報交換とネットワークの構築を目的に、東京都若年性認知症ネットワーク推進連絡会が開催されました。開催方法はオンライン(ライブ配信)とし、①23区内の若年性認知症の方の支援に関わる事業者、認知症カフェ関係者の取り組みの紹介、シンポジウム②参加者による質疑応答の2部構成にて行われました。

シンポジストの発表では、最初に大田区の地域密着型通所介護「HOPE」堀瑞所長より、若年性認知症デイサービスの実践についてお話をいただきました。HOPE では、1日3名の利用者に対してきめ細やかな支援を行っていますが、中でも「やりたいことは自分たちで決める」こと、活動の主役は若年性認知症当事者であることを大切にしています。仲間と一緒に活動することで安心感や楽しさを得るだけでなく、地域交流サロンへの参加、社会福祉協議会からの委託作業の実施、大学キャンパスの清掃活動などを通して、地域社会とのつながりを持つこともできます。



次に杉並区の3箇所の地域包括支援センターより、区の取り組みについてお話をいただきました。杉並区では月1回若年性認知症支援会議を行っており、支援方針や各関係機関の役割分担、社会参加の機会などについて検討しています。更に、各地域の支援者会議の中で一人一人のニーズを細やかに抽出し、地域包括支援センターを中心に実状に合った支援を提供しています。そのような日々の実践の積み重ねにより、当事者が自信を持ち、地域活動への積極的な参加や展覧会への出品につながったという例もご紹介いただきました。また、若年性認知症の会やカフェ、銭湯を拠点とした集いの場が次々に発足するなど明るい話題にあふれていました。

そして世田谷の若年性認知症カフェ「舟」代表の生嶋さんからは、家族としての想いや若年性認知症カフェを立ち上げた経緯などをお話をいただきました。当事者にとっても家族にとっても地域とのつながりが大切であるとの想いから、カフェの運営や商品づくりを通して、社会参加しているという実感が持てるよう取り組まれています。支援者に期待することとしては、正しい知識の普及や医療機関と地域とのつながり、情報の集約などを挙げられていました。

参加者からの質疑応答でも各区での特色を活かした様々な取り組みが発表され、今後の連携につながる大変有意義な会が持てたのではないかと思います。



希望の光

若年性認知症カフェ「舟」 生嶋裕子

世田谷区経堂で若年性認知症カフェ「舟」を主催しております生嶋と申します。「舟」は様々な方のご協力に支えられて立ち上げから2年が経ちました。「舟」のようなピアサポートの場を必要とされている方に情報が届くよう試行錯誤の日々でした。

15年前、若年性認知症の父と認知症の祖母を見ていた頃は、相談先がなかなか医療機関や行政の窓口でも理解が得られず苦労した経験があります。痴呆症と呼ばれることがまだ多い時期でした。孤立を深め追い詰められた状況のなかで幾度となく思い描いた未来があります。若年性認知症になっても本人や家族が絶望することなく、希望を持って日々を過ごしていける社会に変わってほしい。そんな自分の気持ちに寄り添う考え方があることを介護関連の資格を取るなかで知ります。ノーマライゼーションの考えでした。「病気になった人が悪い。病気に早く気づけなかった家族が悪い。介護離職をした自分が悪い。」的外れな自己責任論で八方塞がりになっていた心が解き放たれ滂沱の涙が止まりませんでした。出口の見えない暗く長いトンネルに初めて



光が差し込んだ瞬間でした。診断を受けてから3年が経っていました。自分で調べて、やっと介護保険や社会保障制度と繋がりますが、当時はまだ既存の社会保障制度は若年性認知症を想定していないものばかりでした。

7月19日の東京都若年性認知症ネットワーク推進連絡会に参加して、若年性認知症を含め認知症を取り巻く環境が大きく変わろうとしていることを知りました。人はどんなに障害が重くてもノーマルライフを送る権利がある。社会はそれを保障する責任がある。社会的責任を明確にしていく、そんな思い描いていた未来になりつつあること。今秋、閣議決定される「認知症施策推進基本計画」案に若年性認知症の人



の就労支援が急務との認識が示されたことなどからも、大きな転換を感じました。「流れが変わろうとしているよ、長かったね。」思わず心のなかで父に語りかけていました。今の時代に若年性認知症を発症していたらもう少し穏やかな余生を送り、発症してからの第二の人生もあり得たのだろう。そんな悔しさや無念ささえも消え去るほどの喜ばしい変化に安堵を覚えました。世の中が変わってきたのではなく、変えてきた人達がいること。かつての若年性認知症のご本人・ご家族の断腸の思いも汲み取られたことを感じました。



最後に、分け隔てなくすべての人に平等だった父を子どもの頃から見てきました。僧侶だったので職業上によるものとも言えますが時として自分が不利益を被るかもしれないのに損な役回りをしている印象があり、何故そこまで若い頃は不思議でした。「舟」は茶室で参加者の方に抹茶で一服、季節を感じながらお過ごし頂くことがあります。茶道を習うなかでお茶の作法が利他の心で成り立っていること、仏教の教えに倣っていることを知りました。「舟」を開催するにあたって、父が示していた生き方に奇しくも触れることになりました。他者への不寛容が加速しているとも言われる現代に「舟」がささやかながらも温かい希望の光を灯し続けられたらと思います。

齋藤先生の若年性認知症そ・う・だ・ん



いきいき福祉ネットワークセンター理事で、精神科医の齋藤正彦先生が若年性認知症のお悩みにお答えします。

若年性認知症ってどんな病気？新しい薬はあるのか？悪くならないようなりハビリはあるの？仕事はいつまで続けられるのでしょうか？等々、ご本人・ご家族のお悩みに医学的な見解と豊富な経験を基にアドバイスいたします。

- 日時
毎月1回、第2火曜日（詳細は当センターホームページにてご確認ください）
- 会場
目黒区碑文谷5-12-1 特定非営利活動法人いきいき福祉ネットワークセンター内
- 対象
若年性認知症と診断された人、家族

●予約制
事前にお申し込みください 電話 03-3713-8205
ホームページ問合せフォームもしくはお電話にてのお申し込み後に、当センター相談員からご連絡をさせていただきます。

齋藤正彦先生プロフィール

医学博士、精神保健指定医
東京大学医学部卒業
現都立松沢病院名誉院長
老年期認知症の医療・介護、高齢者の意思能力・行為能力に関する司法判断に関する研究多数
著書 都立松沢病院の挑戦(岩波書店)、アルツハイマー病になった母が見た世界(岩波書店)、私たちの医療倫理が試される時(ワールドプランニング)など多数

